

市場の活性化を考える会（第2回）における主な意見の概要 （令和2年10月1日）

【議論の目標について】

- この会議では、多様な専門分野の知見を有する委員により構成されている当会議の特性を踏まえ、生鮮食料品等流通や卸売市場制度における既成概念等にとらわれない、幅広い議論を行っていくことを確認。
- 東京の卸売市場の特性は、巨大な消費地を背景とした豊富な品ぞろえにより人々を惹きつけているところにある。厳しい環境の下、東京の強みを活かした全国にも提案できるような提言を示せると、活性化に結びつく。
- 中長期にわたり持続可能な市場とするため、グローバル時代の下での輸出の取組や、ICTなどの最先端の技術をどう活用するかなども踏まえ、都内11市場の機能を個性化する観点で経営改善を進め、活性化に繋げていく。
- 水道や空港や地方鉄道などの公営企業体は、今までの構造をオーバーライドしてやっ払いという動きが少しずつ出てきており、卸売市場も構造は違うが一緒ではないか。公営企業会計でやっている行政の事業経営は、硬直的な構造により、会計的にも立ち行かなくなる事例が多い。卸売市場の運営についても、生産性の向上や担い手不足などの課題を誰が担い解決していくのか、公共性と事業性のバランスを取りながら、社会資本としてサステナビリティを担保する解決策を、都として考えていく必要がある。
- 市場が完全に民間の事業体であったとすると、これは存続が難しい事業体で、普通の民間経営であったとしたら、徹底的に規模を縮小するなりして、縮小均衡を目指すのが民間経営での模範解だ。卸売市場の現状を踏まえ、市場外の担い手による生鮮食料品等流通が増加しているというトレンドに向き合いつつ、都民に提供する価値を追求していくのか、規模を縮小して効率化に向かうのか、市場の活性化のゴールを見定めた議論を進めていくべきである。
- 食品卸売業者が、規模の経済を發揮できるのかについては検討の余地があり、冷静に考えていく必要がある。東京都だけを視野にして議論をしてしまうと行き詰まってしまうので、全国を視野に入れた議論が必要である。

【物流の効率化について】

- 日本は、食品にかかわるサプライチェーンが非常に複雑で、それが単純化すれば生産性が上がり、全体が効率化するかというと、必ずしもそうでない。流通経路をただ単純化するのではなく、多様な担い手の存在を前提に、国民の食生活を豊かにするという目的の下、情報と物流のインフラのところだけはきちんと効率化

された生産性が高い仕組みをつくる必要がある。市場に集まる情報の電子化や作業の標準化、労働環境の改善などに取り組んでいく必要がある。

- 食のバリューチェーンを維持していくために、産地や消費者の中間に位置する卸売市場が、商物分離の強みを活かして、物流の効率化などに取組んでいく必要がある。物流の統一なり、規格化、情報の連携は非常に大事。例えば、共同物流や、24時間荷受けをやって設備をフル稼働させるとか、賛否はいろいろあるかもしれないが、設備をいかに生かしていくかが重要。
- トラック輸送で効率が悪いのは、荷役、積下しの部分。卸売市場は相当、手荷役をやっており非常に効率が悪い。生産地からの受け手である卸売市場が主導的に標準化をやれば、大幅に変わる。

【市場の取り組むべき施策について】

- 労働環境について、今の時間の流れでやっていて、今後もずっと継続できるか。早朝にせりをやり、夜間に回すというやり方で持続できるか。昼に回すという考え方もあるし、今の時間軸で回すなら、徹底的な省人化など全く違った物流の構造が必要。人材確保や労働環境改善も重要な課題であり、場内物流の効率化と一緒に議論したい。
- 市場取引の電子化については、市場業者の設備投資への負担への懸念も想定されるので、都による標準仕様の提示やインセンティブも考慮するなど、利用しやすい形にしていく検討が必要。
- 市場の活性化が手段ならば、その目的は都民に信頼される卸売市場であり、強みを活かして新たなニーズに応え、変革に対応していくことが重要である。その中で、資源の枯渇を防ぐためにも持続可能な調達が重要。資源が枯渇する状態をいかに防いでいくか。市場もそのような考え方でやっていかなければならない。
- おいしさとか安心・安全は当たり前だが、今、やらないといけないのは、持続可能性、サステナビリティをどうやって実現していくかということ。食においては健康も重要であり、こうしたニーズを実現できる卸売市場を期待している。
- 全国の卸売市場に影響力のある東京の市場が、プラスチック対策やLED化・太陽光発電の設置に取り組む、見える化を進めていくことは非常に意義があると思う。太陽光パネルをつけて消費電力を全部賄うといった市場をつくり、見える化するというのも、活性化としてはあっていい。
- 卸売市場における生鮮食料品等流通は、公正な取引、安全・安心の確保など重要な公の役割を担っていることを評価すべきである。物流の効率化を検討するとともに、卸売市場が、自然災害への対応やSDGsへの取組や日本の食文化を守ること、輸出や産地の育成に寄与していくことも重要である。